

まちかど・ズームIN!

新世紀の事始め

ゆく世紀、くる世紀



除夜の鐘を鳴らす会 12月31日

午後11時30分から白石城本丸内鐘楼で「除夜の鐘を鳴らす会」が開かれ、家族連れなど108組が、新世紀への夢と願いを込めて鐘を鳴り響かせました。



入魂

親子2代で刀打ち初め 1月2日

市無形文化財に指定されている宮城昭守さんの日本刀鍛錬所で、打ち初めが行われました。真っ赤に焼けた玉鋼たまがねに大槌おおつちを振ると、勢いよく火花が飛び散りました。



仕舞で新年を祝う

新春を寿ぐ市民の集い 1月6日

約350人が参加して市内のホテルで開かれた「新春を寿ぐ市民の集い」で、白石喜多会なまひの皆さんが、新年を祝って仕舞「難波」を披露しました。



21世紀の始まりに心新た

初日の出を拝む会 1月1日

白石城で「初日の出を拝む会」が開かれ、約70人の市民が、午前7時すぎに雲間から顔をのぞかせた太陽に向かって、今年1年の繁栄や健康を祈願しました。



伝統の継承と発展を誓う

こけし初びき 1月2日

こけしの初びきが弥治郎地区のこけし神社で行われました。今年の初びき者は、女性工人としては2番目となる新山真由美さん。みこ姿でろくろ台に向かい、神社に奉納するこけしを仕上げました。



新春は心静かに

碧水園茶会「初釜」 1月7日

碧水園で「茶会(初釜)」が開かれました。参加者は、点心席で七草がゆをいただいたあと、茶室でお茶を飲み、和やかに1年のスタートを切りました。



心地よい汗

白石城一周元旦マラソン 1月1日

白石城大手門を発着点に周辺の約2.5kmを走る「第38回元旦マラソン」が開かれ、73人の市民が午前7時、完走を目指して一斉にスタートしました。



慎重に厳かに

白石和紙初すき 1月5日

市内で唯一、和紙すきの伝統を受け継ぐ鷹巣の白石和紙工房で初すきが行われました。神事のもと、遠藤まし子さんが、すき舟を巧みにあやつりながら一枚一枚、心を込めて和紙をすきました。



さらなる防火を誓う

消防出初め式 1月7日

白石市消防団員約650人が出動して、「消防出初め式」が行われました。ポンプ積載車など57台で市内をパレードしたあと、ホワイトキューブで式典が開かれ、今年1年の安全を誓いました。

今年もよい年でありますように

みなさんからの素敵な情報を待ってます!

百人一首に耳を澄ませて 仙南かるた大会 1月7日



中央公民館で1月7日、第16回仙南かるた大会が開かれ、小学・中学・高校・一般の4部門に79人が参加しました。

参加者は歌が読み上げられると、真剣な表情で札を探しました。

晴れの門出を祝う 平成12年度成人式 1月8日



中央公民館で1月8日、平成12年度の成人式が行われ、晴れ着やスーツ姿の若者たちの笑顔でいっぱいになりました。

今年の新成人は542人で、式典ではそれぞれに20歳の誓いを立てていました。

魅惑のひととき 六本木男声合唱団白石公演 1月14日



ホワイトキューブで1月14日、政財界、文化人、タレントなど各界の著名人で構成する異色の男声合唱団「六本木男声合唱団」の白石公演が行われました。観客は、普段聞けない彼らのトークと自慢の歌声に魅了されていました。

一月十四日に六本木男声合唱団の白石公演が行われた。クラシック大好きな著名人グループであるから、ピンは日本有数のテナーである小林一男さんから、キリは誰とは言わないが、その落差は相当大きなものがあるだろう。しかし、旅費、宿泊費を含め一人五万円ずつの自腹を切り、入場料は全額キューブに寄付してくるのだからありがたい話ではある。



川井市長の せせらぎトーク

六本木男声合唱団

これまで、ヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテルでディナーショーを二回行ったのみで、ホールでの公演は本邦初だそう。ディナーショーの料金は三万二千円、キューブでの入場料は二千元。しかも、小林一男さんの独唱が二曲、そして日本人として最年少でシヨパンコンクール三位に入賞し、かつて白石でも公演をした横山幸雄さんのピアノのおまけ付き。この二つだけでも二千元以上の値打ち

がある。前日、練習が終わったあとの懇談会がスバッシュランドしろいしでもたれ、大変楽しいひとときを過ごさせていただいた。まず、山形弁研究家を自称するダニエル・カーランドさん。スバッシュランドで待っていた私のところへ駆け寄り、つてくるなり、市長の奥さんは高島だそう、私の家内も高島生まれですと言いついて大いに話が弾んだ。グラフィックデザイナターの駒谷宏さんは初対面であったが、ソムリエの資格を持つワイン通であることはよく知っていた。お土産に持ってきていただき、みんな味わったドンペリの特別品はなんと旨かった

ことが。一千万円出して一本のワインを買ったという伝説を感嘆させてもらった。高橋進さんは元建設省事務次官である。私が一期、二期目の頃、建設省に行っても秘書に名刺を渡して来るくらいで、とても会って陳情するなどとはいかなかったが、このような場所は誠に便利なものである。助役は、非常に難しい状態になっている白石川緑地公園四百メートルトラックの全天候型について、何とか力添えをしてほしい旨を話していたよつである。

小野敏夫さんはNECの常勤監査役であるが、現在造成が終わったトーキングの当時の用地担当、水上専務の上司だということや、新刈田病院のオーダーリングシステムがNECに発注されていることなど、これまた話が弾んだ。面白かったのはインサイダー編集長の高野孟さんである。テレビでしょっちゅうお目にかかっている初対面のような感じもせず、彼が大変興味を持ったのが白石のNPOであるとのこと。メンバーには次のように言っていた。「我々は東京にばかり人材がいると思っ